

「我ママ」と「わがママ」

コロナ対応開始され、1年が過ぎ、昨年度、今年度と園長だよりに書きたいことがあり過ぎて、しかし、様々なお立場の保護者様を思うと逆に書けないなと思いながら時間が過ぎてしまいました。

皆様、日頃よりお子様方のために園とワンチームでの子育て、ありがとうございます。こんな状況だからこそ、そのチームワークに感謝しかありません。

子育てをしている時「あれ？これって自分の母親（お子様方のおばあちゃま）が言ったりしていたことかな？」と思ひ当たることはありませんか？

今年度は先生方の「我ママ」自慢をお伝えします。

僭越ながら、、、トップバッター、私の「我ママ」自慢をしたいと思います。

- ①スポーツ好き 70歳までテニス、弓道 現在は80歳越えていまだに弓道。
- ②家事全般、仕事、子育て両立のロールモデル 1960年代から70年代にかけての働く女性。尊敬。
- ③料理上手 大根1本がご馳走に。。。素朴な素材があつという間に美味しい1品
- ④人としての道に厳しい「ならぬことはなりません」は時代を超えても変わらない
- ⑤親を大切に 同居のお姑（私の祖母）の介護も定年まで仕事と両立

来月からは順に先生方の「我ママ」自慢を掲載してまいります。お楽しみに。

さて、もう一つの「わがママ」はネガティブワードのように聞こえますね？お子様にとっては、育ちの中で大切なキーワードです。

「やりたい、やりたくない」「好き、嫌い」「我慢したくない」「思い通りにならない」と言って、駄々をするお子様を「わがママ」と決めつけていませんか？

そこには、必ずお子様の意図があります。ただ、それを大人のように言葉でロジカルに、もしくは感情を言葉で伝えることができないので、限られたボキャブラリーの中で、一生懸命に伝えようとしているのです。それを頭ごなしに叱ってしまう前に、落ち着かせて「質問形式」で伝えようとしていることを「引き出す」ように心がけてみましょう。

「でも、外出している時とかは本当に困ります。」という声も多くお聞きます。そんな時は困ってしまい、心理的に大人が参ってしまいそうになりますよね？「わがママ」を、聞いてあげることも時には良いのではないのでしょうか？但し、後付けで一緒にお風呂に入りながら「今日は、こういうことがあったよね。。。でもお母さんはこう思ったよ。困ったんだよ。」と一人の人間対人間で振り返りをし、大人も一人の人間で、あなたのわがママに本当は困ったよと伝えても良いと思います。

子どもを「子供扱い」せず、一人の人間として対峙する瞬間があることが、これから先の読めない未来を生き抜いていく「子育ての鍵」のように思う今日この頃、雨の日々です。コロナ対策、チーム一丸で乗り越えて参りましょう。

ちなみに、私たち大人が「もうこれだけ子育てで、コロナで我慢してきたのに。。。」予想外のことが急に起きて「私はこうして欲しいのに、思い通りにならない！！！！」と、駄々をして、周りにいる大人に対して誰にでも感情をぶつけるのは、

大人ですから「わがママ」と言っているのではないのでしょうか？

言った方はせいせいするのかもしれませんが、言われた方は大人ですから記憶に残るでしょうし、いつも申し上げているようピンチをチャンスに変換し「お子様方の規範」となっていてほしいと願います。

私たち大人には、子どもたちがまだ持っていない「伝える言葉」がありますからね。